茨城県衛生研究所における病原体（ウイルス）検出情報　－2012/4/5 －

2012年3月31日現在

1. 3月のウイルス検出状況

		水戸	ひたちなか	常陸大宮	日立	鉾田	潮来	竜ヶ崎	土浦	つくば	筑西	常総	古河	合計
インフルエンザ	AH1													0
	A（H1N1）2009													0
	AH3		1	2		1	4					1	1	10
	B	2	3	2		1	2		1			1	8	20
感染性胃腸炎等	NV(G1)													0
	NV(G2)	2	5			1	2	6		5				21
	RotaA									4				4
	SV				2									2
つつが虫病	Kawasaki								1					1

〇インフルエンザから検出されたウイルス
　AH3およびB：定点医療機関の検体から検出

〇感染性胃腸炎等から検出されたウイルス
　感染症関連
　　ノロウイルスG2：つくば保健所管内の保育園と幼稚園
　　水戸、鉾田、潮来保健所管内の社会福祉施設
　　ひたちなか、竜ヶ崎保健所管内の医療機関
　　A群ロタウイルス：保育園で発生した集団発生事例から検出
　食中毒関連
　　サポウイルス：他県で発生した食中毒関連調査から検出

2. 月別検体受付数

臨床診断名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
A型肝炎													0
デング熱													0
急性脳炎													0
麻疹	3	5	1										9
感染性胃腸炎等	129	101	32										262
手足口病													0
ヘルパンギーナ													0
インフルエンザ	95	104	31										230
流行性角結膜炎		1											1
無菌性髄膜炎													0

3. 月別ウイルス検出件数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
A型肝炎	HAV													0
つつが虫病	Kawasaki			1										1
デング熱														0
急性脳炎														0
麻疹	Measles		1											1
	HHV6	1												1
	HHV7													0
	Rubella		1											1
	PVB19													0
感染性胃腸炎等	NV（G1）													0
	NV（G2）	72	42	21										135
	SV			2										2
	RotaA	3	5	4										12
手足口病														0
ヘルパンギーナ														0
インフルエンザ	AH1													0
	A（H1N1）2009													0
	AH3	69	87	10										166
	B	23	13	20										56
	A(H1N1)2009 オセルタミビル 耐性株													0
流行性角結膜炎														0
無菌性髄膜炎	エコーウイルス3													0
	エコーウイルス6													0

【 ウイルスの略語 】
HAV（A型肝炎ウイルス）、 Measles(麻しんウイルス)、 HHV6（ヒトヘルペスウイルス6型）
HHV7（ヒトヘルペスウイルス7型）、 Rubella（風しんウイルス）、 PVB19（ヒトパルボウイルスB19型）
NV(ノロウイルス)、 SV(サポウイルス)、RotaA(A群ロタウイルス)
AH1（Aソ連型）、 A(H1N1)2009（2009年流行株）、 AH3(A香港型)

トピックス

つつが虫病は，茨城県ではその多くが県北部や県西部で発生していますが，今回は，県南部の医療機関から報告がありました。患者さんは60歳代の男性で，推定感染地域は自宅周辺です。つつが虫病の病原体は*Orientia tsutsugamushi*というリケッチアで，5種類知られています。今回はそのうちの1つ，Kawasaki株によるもので，県内では初めて確認されました。当初は，コマーシャルラボでの検査によりGilliam株などの感染が疑われましたが，行政による詳しい検査の結果，Kawasaki株によるものであることがわかりました。

つつが虫病は，日本紅斑熱とならび，我が国に常在する代表的なリケッチア症です。感染症法に基づく全数届出の4類感染症になっており，ほゞ毎年，全国で死亡例が報告されています。感染は，山林や畑で野外活動中にダニの一種であるツツガムシ（Kawasaki株の媒介ツツガムシはタテツツガムシ，Gilliam株はフトゲツツガムシ）の幼虫に刺咬されることによって起こります。症状は，マダニが媒介する日本紅斑熱（これまでのところ，本県での発生はありませんが，隣の千葉県では報告されています）と同様に発熱，発疹，刺し口を3主徴としますので，鑑別には実験室診断が必須です。

本県では秋から冬にかけて発生していますので，山や草むら，畑に入るときはダニに刺咬されないよう服装に注意することが必要です。潜伏期間は5-14日といわれていますので、もしその後に発熱、発疹がみられたら，すぐに医療機関を受診しましょう。